

【様式】

令和7年度 学校マネジメントシート

学校名（ 名張高等学校 ）

I 目指す姿

<p>(1) 目指す学校の姿</p>	<p>校訓である「自律」「協調」「創造」の精神を活かし、地域とともに新時代の社会で活躍できる人材を輩出する学校</p>	
<p>(2)</p>	<p>育みたい資質・能力（育みたい生徒の姿） 【グラデュエーション・ポリシー】</p>	<p>総合学科の系統的な学びをとおして「自律」「協調」「創造」を体現できる力を身につけることを基本方針とし、「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」「学習成果発表会」等の探究活動や表現・発表の機会を主軸に置いた学習活動を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自律」大きく変化する社会の中で、自分の力を信じ、学び続ける姿勢 ・「協調」社会のニーズを受け、仲間とともに目的に向かって協働する中で、それぞれの能力を発揮し、作り上げていく達成感を共有できる力 ・「創造」自分たちの感性を形にし、表現・発表することの喜びを実感できる力
	<p>ありたい教職員の姿</p>	<p>〈生徒とともに〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・信頼：生徒との信頼関係が構築できる。 ・授業：ICTを活用し、主体的・対話的で深い学びを意識した授業を中心に生徒の人間性と専門性を高めることができる。 ・相談：学習のつまずきや日頃の悩みに気づけるアンテナを持ち、耳を傾けることができる。そして粘り強い支援と指導ができる。 <p>〈保護者・地域社会とともに〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・信頼：保護者との信頼関係が構築できる。 ・連絡：日々の様子や変化を的確に共有できる。 ・情報：希望する進路実現ができるよう迅速な情報提供ができる。 <p>〈ワークライフバランスを意識した働き方〉</p> <p>会議の精選や業務の効率化などにより「働きやすい職場」を作ると同時に、自己の研修の還流等を図ることで「働きがいのある職場」を作る。</p>

2 現状認識

<p>(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待</p>	<p><生徒></p> <p>生徒アンケートの結果、3年次生の約18%が就職を希望し、約46%が専門学校（看護系を含む）約36%が四大・短大への進学を希望している。</p> <p>授業、学校行事、部活動を中心に教育活動のすべてに対する期待度が高い。</p> <p><保護者></p> <p>学校目標や教育目標への理解度が高い。多様なニーズに対応し、進路実現を可能にしてくれる学校になってほしいとの期待度が高い。近年では、資格取得への取り組みに加え、ICT教育、消費者教育、主権者教育への期待度が高い。</p> <p><地域></p> <p>地域を支え、地域をリードする資質・能力を有する人材輩出への期待度が高い。また、一層活発な情報発信を求める声がある。</p>
------------------------------------	---

	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	<p><家庭> 安心・安全に学べる環境と校風</p> <p><地域> 信頼できる学校から、学ばせたい学校への進化、地域づくりのパートナーとしての役割</p> <p><就職先> 卒業生や勤務先の先輩からの期待を裏切らない人材の輩出</p> <p><進学先> 学び続ける力と志を備えた人材輩出</p>	<p><家庭> 基本的な生活習慣の確立、本校教育方針へのさらなる理解と協力</p> <p><地域> 学校と地域が協働した取組みの推進 地域教育力の発揮</p> <p><就職先> インターンシップ、進路講話への協力 継続した採用</p> <p><進学先> 高大連携授業、進路講話への協力</p>
(3)前年度の学校関係者評価など	<p><確かな学力の向上> 「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について（令和6年12月25日 中央教育審議会諮問）」によると、顕在化している課題として、「学ぶ意義を十分に見いだせず、主体的に学びに向かうことができない子どもの増加」「子どもの社会参画の意識、将来の夢を持つ子どもの割合等についても、改善傾向も見られるものの国際的に見て低い状況」が指摘されている。</p> <p>名張高校では、全日制においては総合学科の特徴を生かして、定時制では少人数クラスで個々の生徒の学びを支える学習活動を通して、また地域との連携した様々な活動によって、生徒は「学ぶ意義」を感じることができ、「本物の学び」を経験できている。このことは確かな学力を身につける原動力となっていると思われる。</p> <p>生徒や教職員が名張高校の学びの素晴らしさに気付くためにも、名張高校の生徒アンケートの数値の変化にだけ着目するのではなく、内閣府の「我が国と諸外国のこどもと若者の意識に関する調査（令和5年度）」の調査項目と比較するなど、名張高校ならではの教育の成果がより見えてくる手法を取り入れてもよいのではないか。</p> <p>アンケートでは「授業に積極的に参加できている」という問いに対して、「そうである／ややそうである」が各学年とも高い割合となっている。この割合をさらに増やすためには、少数の「あまりそうではない／そうではない」という否定的な回答の原因を分析することが必要ではないか。それによって、教師の授業改善につながると考えられるのではないか。</p> <p><豊かな心の育成> 「挨拶がなぜ大切なのか言葉で説明できる」というアンケート調査の項目で、3年生の2月には「できない」と回答する生徒はいなくなり、他の学年も多くの生徒が「できる／できるが自信はない」と回答している。教師が「挨拶をしよう」と単に呼びかけるのではなく、「挨拶がなぜ大切なのか」を生徒らに考えさせる取組は、形式的な挨拶ではなく、相手に対する心からの挨拶を身につけることができるのではないか。次年度も継続して取り組み、生徒全員が挨拶の大切さを自分の言葉で説明出来るようになることを期待したい。</p>	

<p>(3)前年度の学校関係者評価など</p>	<p>〈総勤務時間の削減〉 働きやすい職場環境の構築に向けて定時退勤日の設定、部活動の休養日の設定、会議を60分以内に終了する等、具体的な数値目標を掲げ、組織的に取り組んでいることは大いに評価出来る。しかし総勤務時間は多くなっている状況もあるため次年度も縮減の取り組みを推し進めていただきたい。</p> <p>〈情報提供による信頼の構築〉 中学3年生とその保護者や地域に向けた学校広報誌の発行が年5回にも及んでおり、そのことが、名張高校への地域の信頼構築や「高校生活入門講座」の参加者の増加につながっているのではないかと考えられる。業務改善と広報誌がもたらす効果のバランスを考えながら、名張高校の教育活動とその成果の発信を引き続き行っていただきたい。</p> <p>〈教職員の資質向上〉 コンプライアンス研修、人権研修が計画的に実施されていることは評価出来る。研修が形骸化しないためにも、内容や形式を毎年工夫されたい。</p>
<p>(4)現状と課題</p>	<p>教育活動における課題は3つである。</p> <p>① 授業規律と聞く姿勢 人間関係の第一歩である「挨拶」について全職員が探究し続け、TP0に合わせた挨拶ができる学校文化の構築を目指す必要がある。本校の授業の目標に掲げている「あいさつと静寂を」を全職員が認識し、授業は勿論、集会等の最初と最後のあいさつを丁寧に指導していく。加えて「聞く姿勢」についても指導を行うことでメリハリのある授業を目指すことが1つ目である。</p> <p>② 自己肯定感を育む授業づくり 生徒満足度調査によると、「授業の内容が理解できている」と肯定的に答えた生徒の割合は、1年次で81%、2年次で90%、3年次では96%と、学年が上がるにつれて高くなっている。学年が進むごとに少人数展開や専門性の高い授業が増え、生徒一人ひとりに合った指導が行われるようになることが、理解度の向上につながっていると考える。また学年の進行とともに、生徒自身が学校生活や学習環境に慣れ、学習習慣が身につくということも一因であり、教師との信頼関係の蓄積や、友人との協働的な学びの中で安心して学べる雰囲気醸成されることも、理解度向上に寄与している可能性がある。</p> <p>一方で、苦手意識を持ち、学習に対して消極的な生徒も一定数存在する。そうした生徒も含め、すべての生徒が学びに前向きになれるよう「わかる授業」「学ぶ過程や成果が認められる授業」をつくっていくことが2つ目となる。</p>

(4) 現状 と 課題	教育活動	<p>③ 探究活動で新しい時代に必要な力を</p> <p>昨年度、本校では探究活動が十分に深まらず、調べた内容をそのまま発表するだけで終わってしまうケースもあった。主体的に課題を設定し、自ら仮説を立てて検証を重ねる過程が十分に機能しておらず、生徒自身の思考の深まりにもつながっていない。背景には、教員側の指導観や探究活動に対する意識の改革の必要性も見受けられる。2月に予定している学習成果発表会に向け、教員も生徒も「探究とは何か」を改めて問い直し、学びのプロセスそのものを重視する取り組みを推進し、新しい時代に必要な力（コミュニケーション力、主体性、プレゼン力）を育むことができる総合学科をつくっていくことが3つ目の課題である。</p>
	学校運営等	<p>学校運営における課題は「働き方改革」である。</p> <p>働きやすい職場環境の構築に向けて定時退勤日の設定、部活動の休養日の設定、会議を60分以内に終了する等、具体的な数値目標を掲げ、組織的に取り組んできた。しかし、年360時間を超える時間外労働者数が19人、月45時間を超える時間外労働者の延べ人数が74人と多いのが現状である。</p> <p>この原因として部活動の指導が教員の勤務時間を押し上げる一因となっていることが課題である。しかし、部活動に情熱を注ぎ、生徒と一緒に高みを目指して努力を重ねる教員たちの姿は、学校にとってかけがえのない力である。そうした部活動は、ぜひより高い目標を掲げ、誇りを持って続けてほしい。一方で、専門的な知識がない、負担が重いと感じる教員には、無理をせず適度な距離感で関わり、自身を守ることを大切にしてほしい。すべての教員が、自分らしいペースで子どもたちに向き合える環境づくりを、総勤務時間の管理とともに進めていきたい。</p>

3 中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム・ポリシー】	<p>〈楽しい学校の醸成〉</p> <p>「楽しい」とは「知的に楽しい」という意味であり、平たく言えば発見や感動を得ることができる環境を指す。生徒が安心して学べる環境を整え、人格の形成を重視した「人権教育」を基盤に「聞く姿勢」の指導を継続して行く。そこに「わかる授業」の開発を推進し、発見や感動を生み出すことを目指す。学びが楽しくなることで、生徒の学ぶ意欲が高まり、日々の成長を実感できるようになる。この一連の流れをマネジメントすることで、生徒が自主的・自発的に学び、積極的に学びの場に参加する雰囲気が醸成された学校を目指す。</p> <p>〈地域社会で活躍できる人材育成〉</p> <p>地域社会の一員としての自覚を育み、地域活性化や社会貢献に向けた意欲を引き出す教育課程を常に見直し、実施する。自分の夢や目標を達成するために努力できる資質を育てることを目指す。</p> <p>進路実現に向けては、学校として系列や専攻ごとの学びと進路の方向性を共有することも重要である。その上で地域企業や専門家と協力し、実社会で求められるスキルや思考を実践的に学ぶ機会を増やしていく。生徒の思い描いた進路が実現できる、地域の就職先の開拓にも積極的に取り組んでいく。</p>
---------------------------	---

学校運営等	<p>全教職員が、それぞれにおいて責任を果たすことで「重要度」と「満足度」が比例する「働きたい名張高校」を目指す。</p> <p>中長期的には総勤務時間の縮減を目指し、以下の3点を実施する。</p> <p>① 会議を精選し、会議時間を縮減する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各議事の時間を設定することで会議時間を短縮する。 ・各種委員会での議論を深め、改善案を提案し、改善策を実行に移す。 ・空き時間は教材研究に集中できる組織風土を育てる。 <p>② 部活動の活動時間の見直しや効率化</p> <p>部活動の活動時間については週1日の休養日の設置だけでは負担を感じる教員も多い。休養を増やす見直しや、練習内容を工夫して、短時間で効果的な練習を行う方法を探る。例えばオンラインツールを活用して、教員が直接指導にかける時間を減らすことができないか等、新しい試みを検討していく。</p> <p>③ 教員の勤務時間のとらえ方を整理する。</p>
-------	---

4 求める生徒像

入学時に期待される 生徒の姿 【アドミッション・ ポリシー】	<p>(総合的観点)</p> <p>○ 学校生活</p> <p>本校の教育活動全般に対して強い興味・関心を持ち、入学後、積極的・意欲的に学校生活を送る意志のある者</p> <p>(個別観点)</p> <p>○ 学習について</p> <p>国語、地理歴史、公民、数学、理科、英語、芸術、保健体育、商業、情報、家庭等の各教科に強い関心を持ち、得意分野の学習活動に意欲的に取り組む者</p> <p>○ スポーツ・文化活動等について</p> <p>スポーツ・文化活動等に積極的に取り組んでおり、入学後もその活動を継続して行う意志のある者</p> <p>○ 地域活動・人権活動等について</p> <p>地域活動や生徒会活動、学級活動、ボランティア活動または人権活動等に積極的に取り組める者</p> <p>○ 進路について</p> <p>将来、地域社会の一員として地域の活性化や社会貢献をする意欲を持ち、向上心をもって自分の夢や目標の実現に努力する者</p>
---	---

5 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例) 「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】 取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】 取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】 「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
<p>確かな学力の向上</p>	<p>【活動指標】 7月と12月に各取り組みに対する生徒満足度調査を実施する。</p> <p>【成果指標】 回答率95%以上。 また各設問において「できない」「ややできない」の回答者に対して「足りないもの」が書ける記述欄をつくることで、改善に必要な意見を引き出せるようにする。</p> <p>(1) 授業改善</p> <p>【活動指標①】 各教科において授業アンケートを実施する。(年2回)</p> <p>【成果指標①】 「授業がわかる」の質問に対して「そう思う」「ややそう思う」と回答した生徒の割合90%以上。</p> <p>【活動指標②】 生徒満足度調査に探究活動に関する質問を加える。</p> <p>【成果指標②】 「探究活動を通して、何かに気づいたり、考えを深めたりする場面がありましたか？」の質問に対して「そう思う」「ややそう思う」と回答した生徒の割合80%以上。</p> <p>【活動指標③】 各専攻で「地域連携」を計画し、成果を報告する。</p> <p>【成果指標④】 日時と報告が1月の総合学科教育委員会にてなされ、2月にHPにて周知がなされる。</p>		◎
<p>豊かな心の育成</p>	<p>(2) 基本的な生活習慣の定着と確立</p> <p>【活動指標①】 毎月、挨拶のポスターを作成する。それを全職員が掲示し、全職員が挨拶を1度以上話題にする。</p> <p>【成果指標①】 毎月の教員への確認において、挨拶のポスターを掲示率、話題にした率、ともに90%以上。</p> <p>【活動指標②—1】 生徒満足度調査に「挨拶」と「聞く姿勢」の指導に関する質問を加える。</p>		※

	<p>【成果指標②—1】 「挨拶がなぜ大切か言葉で説明できる」に対して「説明できる」「自信はないができる」と答える生徒が90%以上。 生徒による自己採点 80 点以上。</p> <p>【成果指標②—2】 「『話の途中、相手の話をさえぎらない』や『人の話にうなづく回数が増えた』など『聞く姿勢』に対する意識が向上した」に対して「そう思う」「ややそう思う」と答える生徒が80%以上。</p> <p>(3) 安全・安心教育 【活動指標】 生徒支援部（生徒指導係・保健係）、人権教育、学年による講話・講演等</p> <p>【成果指標】 生徒満足度調査に以下の質問を行う。 「健康と安全について、適切な指導が行われていますか」の問いに、「そう思う」「ややそう思う」と回答した生徒の割合 95%</p> <p>「命や人権を大切にす指導が適切に行われ、安全に学校生活を遅れていますか」の問いに、「そう思う」「ややそう思う」と回答した生徒の割合 90%</p> <p>(4) 意欲の育成 【活動指標①】 進路実現に向けた進路指導部・学年による指導等 【成果指標①】 生徒満足度調査において、「生徒の進路実現に向けて効果的な指導を行っていますか」の問いに「そう思う」「ややそう思う」と回答した生徒の割合 95%</p> <p>【活動指標②】 系列や専攻ごとの学びと進路の方向性を共有する 【成果指標②】 各系列の学びの主な中身と考えられる進路の方向性をまとめた資料を作成する。</p>	<p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p>	
改善課題			

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例) 「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
総勤務時間の縮減	<p>(1) 働きやすい職場環境の構築</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放課後開催の会議が60分以内に終了した割合95%以上 ・設定した日の定時に退校できた教職員の割合80%以上 ・休養日を予定通り実施できた部活動の割合100% ・部活動の活動時間の見直しや効率化を図った部活動の割合100% <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年360時間を超える時間外労働者数 0人 ・月45時間を超える時間外労働者の延べ人数 0人 ・1人当たりの月平均時間外労働30時間以下 		◎
情報提供による信頼の構築	<p>(2) ホームページ・学校広報誌等による情報提供</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの刷新 ・効果的なSNSの調査と活用 ・中学3年生とその保護者及び地域を対象とした学校広報誌の発行 年5回以上 ・報道機関への資料提供 年7回以上 		
教職員の資質向上	<p>(3) 授業改善研修</p> <p>【活動指標】 校内研修 年2回以上</p> <p>(4) コンプライアンス研修</p> <p>【活動指標】 校内研修 年2回以上</p> <p>(5) 教員対象 人権研修</p> <p>【活動指標】 校内研修 年3回以上</p>		
改善課題			

6 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	
---------------------	--

7 次年度に向けた改善策

教育活動について の改善策	
学校運営について の改善策	